

中心人物の変容を読み取り、 主題をとらえることができる児童の育成

—「読み取り手順」の習得と「主題共有」を通して—

- 1 はじめに
- 2 研究について
- 3 実践Ⅰの記録と考察
- 4 実践Ⅱの記録と考察
- 5 おわりに

第1分科会 日本語教育
B 文学・説明文・言語

川嶋 大介 (名古屋・名東小)

研究の概要報告

1 県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

今次の国語教育の分野に提出されたりレポートの数は、説明的な文章の読み方に関するレポートが2本、文学的な文章の読み方に関するレポートが16本、計18本であった。

子どもたちの姿に応じ、めざす授業を実現するための自主教材にとりくんだ実践レポートがなく、残念に思った。しかし、身につけさせたい力を明確にして見通しをもつことを大切にした実践、他教材と結び付けることで古典を身近なものとして読む実践、タブレットを活用して協働的な学びの充実をはかった実践など、目標論、教材論、方法論といったさまざまな視点から子どもたちへの支援にとりくんだりレポートが数多くみられた。どのレポートからも、向き合う子どもたちの成長の一助になりたいという願いと意欲が強く感じられた。

2 今次教育研究集会で論じられた主な課題

(1) 教材の価値や読む活動を通して身につけさせたい力について

古人との感覚の違いに気付かせ、言葉を根拠として仲間とともに読み解いていく古典の実践や、自ら課題を設定し解決したり学習モデルを示したりして主体的に学び合う実践、根拠を明確にして自分の考えを表現する実践などが報告された。討論においては、古典に親しみをもちながら仲間と読み深める価値やその指導法、読みのインプットとアウトプットにおける友だちとの認め合いの重要性などについて、活発な話し合いが行われた。

(2) 読む力を高める指導の工夫や対話的な学びのあり方について

文学的な文章において音読や動作化を取り入れて読みを実感させる実践、心情曲線や図式化などを活用して自分の考えをもつことから対話までつなげて読みを深めた実践、タブレットを活用して自分やグループの考えを視覚的にとらえさせる実践などが報告された。討論においては、タブレットの有効な活用の仕方やその指導法、読むことにおける視覚化・数値化の有効性、様々な対話形式の工夫などについて、熱心な話し合いが行われた。

3 今後の課題

18本の実践は、校種や学年など、それぞれに異なる立場からとりくまれたものであったが、いずれも自分が向き合う子どもたちの主体的な姿を引き出し、学力を高めていこうとする熱意に満ちあふれていた。討論においては、オンラインにも関わらず、相互の向上をめざし、意見交換が熱心に行われた。一方、国語教育における汎用的な力など、国語科の特質を明らかにし、どのように他教科や実生活に活用していけばよいかについて、十分な議論が行われたとはいえない。また、個別最適化の中にある学びの深さという視点で、意見交換が行われなかったことは残念である。今後は、めざす読み力を明確にした上で知的な刺激のある学習活動を工夫し、評価や学びの深まりまでふみ込んだ実践が報告されることを期待したい。

〈佐藤洋一・北村彰規〉

報告書のできるまで

この報告書は、70次に及ぶ愛教組連合教育課程研究委員会の研究成果をふまえ、単組・県の研究・討議を経て作成したものである。報告書の作成にあたり、ご指導いただいた助言者の先生をはじめ、関係の諸先生方に深く感謝の意を表す次第である。

助言者	佐藤 洋一 (名古屋学芸大学)	北村 彰規 (名古屋・平和小)
教育課程研究委員	澤野 佑輔 (名古屋・引山小)	関戸 亮太 (春日井・大手小)
	深谷 麻衣 (愛知・(長久手)南中)	舘 純子 (名古屋・汐路小)
	森川 雄介 (春日井・小野小)	舩 依里子 (幸田・北部中)

1 はじめに

予測が困難な時代にあっては、さまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。このような力を身につけるためには、さまざまな価値観や考え方を知る必要がある。そこで、多くの文学作品を読み、主題をとらえることが有効であると考えた。児童が文学作品を読んで主題をとらえる力を身につければ、さまざまな価値観や考え方をすることができるからである。

ここでいう「主題」とは、読者が作品を通して一番強く感じたことである。児童向け文学作品の多くは、中心人物が設定され、作品の中で起こる事件によって、中心人物の心情が変容する。作品の主題をとらえるためには、中心人物の変容とその原因を読み取ることが重要である。

これまで、児童に主題について考えさせてみても、主題について言及できる児童は少なかった。これは、中心人物の変容やその原因を意識することができておらず、主題をとらえるための読み方をしていなかったことが原因であると考えた。このことから、児童が中心人物の変容やその原因、主題をとらえるための読み方を習得したり、読んだことを交流したりすることで、中心人物の変容やその原因、主題に対する考えをもつ必要があると考えた。

そこで、本実践では、「読み取り手順」の習得、「主題共有」の場の設定の二つの手だてを講じることにした。「読み取り手順」の習得では、中心人物の変容とその原因の読み取り方を示し、児童一人ひとりがそれを意識して主題をとらえることができるようにする。さらに、「主題共有」の場では、とらえた主題を交流することで、作品の理解を深めることができるようにする。以上のような二つの手だてを講じて、めざす児童像に近付けたいと考えた。

2 研究について

(1) 対象 第6学年(35人)

(2) 具体的な手だて

① 「読み取り手順」の習得

児童が文学作品を読みすすめていく上での基本的な読み方として、下図のような「読み取り手順」を児童に示した。これは、東京学芸大学附属小学校の桂聖さんの「五つの読み方」(「文学作品の設定(時・人・場)」「語り視点」「表現技法(比喩、色や明度の暗示、擬人法、反復法、体言止め)」「中心人物の変容」「主題」)を参考に、児童の実態に合わせて改良したものである。

この手順を児童に意識させながら文学作品を読みすすめることで、中心人物の変容とその原因を読み取り、作品の主題をとらえる力をのばすことができると考えた。

「読み取り手順」の習得 学習の流れ

- ア 文学作品の設定を読み取り、中心人物を決定する。
- イ 表現技法から中心人物の心情を読み取る。
- ウ 中心人物の変容とその原因を図式化する。【資料①】
- エ 主題をとらえる。

「ウ」の中心人物の変容とその原因を図式化する活動には、専用の学習プリント【資料①】を活用した。学習プリントには、中心人物の「変容前」「変容後」「変容の原因」を整理して書くことができるようにすることで、考えを交流したときに、自分と友だちの考えとの共通点や相違点をとらえやすいようにした。

【資料①】 中心人物の変容とその原因を図式化する学習プリント

変化

が原因で

原因

変容後

問題①
中心人物は、誰でしょう。比べているものは何でしょう。

問題②
中心人物は、最初と終わりではどう変化したでしょう。

問題③
中心人物が、変化した原因は何でしょう。


が

変容前

この変化を通じて、作者が伝えたかったことは、

主題

課題
この物語で起きた中心人物の変化を、原因をはっきりさせてまとめよう。



② 「主題共有」の場の設定

作品からとらえる主題は、一人ひとり内容が異なることが自然であり、主題を交流することで、作品の理解がさらに深まる。そこで、効果的に交流できるように、児童がとらえた主題をまとめて、一覧にしたプリントを配付する。自分のとらえた主題と友だちのとらえた主題とを比較し、自分の考えと同じ場合には「◎」、理解できるが自分の考えと違う場合には「□」、理解できない場合には「△」で表し、比較した結果を記号で記入させる。そして、自分で記した記号を参考にして、主題をとらえ直す。自分のとらえた主題と友だちのとらえた主題とを比較することで、作品の理解が深まり、児童一人ひとりが主題を明確にとらえることができるようになる考えた。

「主題共有」の場の設定 学習の流れ

- ア 自分のとらえた主題と友だちのとらえた主題とを比較する。
- イ 自分の考えと比較した結果を記号「◎」「□」「△」で表す。
- ウ 記した記号を参考に、主題をとらえ直す。

3 実践 I の記録と考察

- (1) 実践時期 2020年6月上旬
- (2) 教材 いぬいとみこ著『川とノリオ』教育出版6上
- (3) 実践のねらい

「読み取り手順」を意識して読むことで、中心人物「ノリオ」の変容とその原因を図式化し、主題をとらえることができるようにする。

- (4) 指導計画（7時間完了）

時数	主な学習内容	手だて
1	○学習の見通しをもつ ○「作品から伝わるメッセージ(主題)」をふまえ、初めて作品を読んだ感想を書く。	
2	○設定を読み取り、中心人物を決定する。 ○「比喩」「色や明度の暗示」から、中心人物の心情の変化を読み取る。	①「読み取り手順」の習得
3	○「擬人法」「反復法」「体言止め」といった表現の効果について考える。	
4	○なぜ「川とノリオ」という題名なのか考える。	
5	○中心人物「ノリオ」の変容とその原因を図式化し、物語の主題をとらえる。	
6	○とらえた主題を交流し、自分と友だちの主題を比較する。	
7	○「作品から伝わるメッセージ(主題)」をふまえ、作品を読んだ感想を書く。	②「主題共有」の場の設定

- (5) 実践の様子

第2～5時【「読み取り手順」の習得】

第2～4時では、さまざまな表現技法を意識させ、中心人物「ノリオ」の心情を読み取った。本実践においては、「比喩」「色や明度の暗示」「擬人法」「反復法」「体言止め」の五つの表現を取り上げた。

児童が特に注目したのは、繰り返し出てくる「鉛色」という表現であった。「鉛色」という言葉から、「ノリオ」の「暗い、悲しい、落ち込んでいる」という心情を読み取るとともに、「鉄、重たい」という言葉の印象と題材となっている戦争を結び付け、「鉛色」という表現は、作品全体に暗く、重たい感じを与えていると考えることができた。「色や明度の暗示」を意識して読むことで、暗示性の高い表現を理解し、登場人物の心情や物語の全体像について考えを深めることができた。

第5時では、表現から読み取った心情をもとに、中心人物「ノリオ」の変容とその原因を図式化した。「変容前」と「変容の原因」については、「母親と幸せに暮らしていた中心人物のノリオが」「戦争によって…」という意見が多かった。

しかし、「変容後」については「最後の段落でノリオが明るくなっていると思ったので、『前にすすんでいこうという話』とまとめた」という考え(A)と「ノリオは貧しい生活のまま、悲しい気持ちをもって話が終わるので、『周りの人を見て、うらやむような悲しい

話』とまとめた」という考え（B）の二つに分かれた。【資料②】

これらの「変容後」の違いについて話し合わせると、「ノリオのことを中心に読むと、『前向きに生きていこう』と読むこともできるけど、この物語は、『戦争の悲しさ』を訴えたい話なのではないか」という意見があがった。さらに、「幸せに暮らしていた『ノリオ』が戦争によって不幸になった話だと考えるとすると、戦争に反対するメッセージにつながる」と、「変容前」と対比させて理由を述べる児童もいた。登場人物の変容とその原因を図式化したことによって、自分と友だちの考えとの共通点や相違点を明確にして話し合い、物語の全体像をとらえることができた。

中心人物の変容とその原因を図式化をふまえて、児童一人ひとりに主題をとらえさせると、次のような結果【資料③】となった。

35人中30人の児童が「戦争の恐ろしさや両親を失う辛さ」を主題としてとらえ、5人の児童が「前向きに生きていかなければならない」

というメッセージを主題としてとらえた。どちらの主題も中心人物の変容とその原因をふまえており、全員が作品の主題をとらえることができた。

第6時【「主題共有」の場の設定】

第6時では、児童一人ひとりがとらえた主題をまとめたプリントを読み、自分がとらえた主題と友だちがとらえた主題との比較を行った。前時に多くの児童が似たような主題をとらえていたため、考えに共感できるものが多かった。

第7時では、とらえた主題をふまえ、改めて作品の感想を書かせた。すると、数人の児童は「絶対に戦争はしてはいけないものだ」と改めて考えたや「悲しいことがあっても、前向きに生きていかなければならない」といった自分がとらえた主題をもとに、感想を書くことができた。

(6) 成果 (○) と課題 (●)

- 「読み取り手順」を示し、さまざまな表現技法を意識させたことで、中心人物の変容とその原因を読み取ることができた。
- 「主題共有」の場を設定し、自分の主題と友だちの主題を比較して記号を記入したこ

【資料②】「変容後」のまとめ方の違い

A

ノリオは、両親をなくしたけど、おじいちゃん、母が帰ってくる事を願って前に進んでいこうという。

B

じいちゃんとおじいちゃん、暮らしているノリオは、周りの人を見てうらやまやうな悲しい

【資料③】児童がとらえた作品の主題(例)

「戦争の恐ろしさや両親を失う辛さ」

死んでしまったお母さんを、また帰ってくることを続けるノリオの、戦争のつらさや悲しいお話。

「悲しいことや辛いことがあっても、前向きに生きていかなければならない」

人は悲しい事もおとすれるかもしれないけど、その経馬を生きかして前に前に進んでみようという事を伝えた。

とで、互いの主題の違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりすることができた。

- 中心人物の変容とその原因を図式化した場面では、多数派の意見に流されてしまい、少数派の意見を十分に尊重できなかった。
- 「主題共有」できるように全員の主題をまとめたプリントを配付したが、それぞれの主題がどのような理由から考えられているのかわかりづらかったため、中心人物の変容とその原因を図式化したものとともに配付する必要があった。

4 実践Ⅱの記録と考察

(1) 実践時期 2020年11月上旬

(2) 教材 安房直子著『きつねの窓』教育出版6下

(3) 実践のねらい

中心人物「ぼく」の変容とその原因を図式化し、とらえた主題を交流することで、主題を明確にとらえることができるようにする。

(4) 指導計画（7時間完了）

時数	主な学習内容	手だて
1	○学習の見通しをもつ ○「作品から伝わるメッセージ(主題)」をふまえ、初めて作品を読んだ感想を書く。	
2	○設定を読み取り、中心人物を決定する。 ○子ぎつねに対する「ぼく」の心情を読み取る。	①「読み取り手順」の習得
3	○不思議な「窓」に映ったものについて考える。	
4	○「窓」に映った共通点について考える。	
5	○中心人物「ぼく」の変容とその原因を図式化し、物語の主題をとらえる。	
6	○とらえた主題を交流し、自分と友だちの主題を比較する。	②「主題共有」の場の設定
7	○「作品から伝わるメッセージ(主題)」をふまえ、作品を読んだ感想を書く。	

(5) 実践の様子

第2～5時【「読み取り手順」の習得】

第2～4時では、実践Ⅰで学んだ五つの表現技法を確認してから、中心人物「ぼく」の心情や様子を場面ごとに読み取った。児童は、実践Ⅰで学んだ表現技法をよく覚えており、「比喩」「色や明度の暗示」「擬人法」「反復法」「体言止め」といった表現がすぐに児童の発言から出てきた。

これらを意識させると、『昼間の月を見失ったような』は比喩であり、『きつねを見失ったぼく』の残念な気持ちを読み取ることができる」というように、表現から「ぼく」の心情を次々に読み取ることができた。

第5時では、中心人物「ぼく」の変容とその原因を図式化し、主題をとらえることにした。話し合いをすすめると、「変容の原因」について、多くの児童が「きつね」が染めてできる「窓」であると考えた。意見交流をさせると、「自分にとって決して見ることも会うことができないものが映る『窓』を失ったこと（見たこと）によって」という内容を学級全

体で統一することになった。

多くの児童が「独りぼっちでさみしい思いをしていた『ぼく』が、自分にとって決して見ること、会うことができない物が映る『窓』を失ったことによって、失った大切なものや人の存在に気付く話」

【資料④】と中心人物の変容とその原因をまとめ、主題をとらえることができた。

第6時【「主題共有」の場の設定】

第6時では、全員が主題を比較し、記号を記入し終えたところで、交流の時間を取った。すると、自分が共感できた主題について、「ぼくが表現したかったことが友だちの言っていたことと、とても似ていて参考になった」と友だちの主題のよさを認めることができた。また、「『□』の記号を付けた友だちがなぜそのような考えになったのか聞きたくなかった」と、自分とは違うとらえ方をした主題について理解を深めようとすることもできた。

交流後、児童に主題をとらえ直させると、友だちの表現を参考にしたり、より具体的な表現を用いたりして、主題を明確に表現することができた。

(6) 成果 (○) と課題 (●)

- 実践Ⅰから「読み取り手順」を継続的に指導して、児童に意識させたことで、児童自ら主題をとらえることができるようになった。
- 「主題共有」するときに、比較した結果を記号で記入させたことで、自分のとらえた主題を明確にすることにつながった。
- 文学作品それぞれに表現や登場人物、設定に特徴があり、「読み取り手順」だけでは十分に網羅できず、作品の理解を十分に深めることができなかった。
- 「主題共有」の場で、記号の記入に多くの時間を充ててしまい、交流する時間を十分に設けることができなかった。

5 おわりに

児童には、自らの力で文学作品を読み、主題をとらえる力を身につけてほしい。そのためには、どの学年のどの単元でどのような読み取りの技能を習得すべきか、より明確にしていく必要があると考える。よって、今後の文学作品の指導では、児童にどのような力を身につけさせるのか明確にした上で指導にあたり、児童一人ひとりが主題をとらえられるような授業展開をめざしたいと考える。

